

# 2011年度(2012年3月期) 第3四半期決算説明会



2012年2月2日

大正製薬ホールディングス株式会社  
常務取締役 酒井 明人

# 今回の決算発表について

- 本日発表した大正製薬ホールディングス株式会社の第3四半期連結財務諸表は、完全子会社となった大正製薬株式会社の連結財務諸表を引き継いでいます。

# 2011年度第3四半期決算：概要



(億円)

	2010年度 3Q累計	2011年度 3Q累計	前年同期比 増減	
売上高	2,077	2,112	+35	+1.7%
セルフメディケーション事業	1,311	1,301	▲10	▲0.8%
医薬事業	766	811	+45	+5.9%
営業利益	403	349	▲54	▲13.3%
経常利益	436	411	▲25	▲5.8%
四半期純利益	259	210	▲49	▲19.0%

注：金額は億円未満四捨五入

# 2011年度第3四半期の概況(1)



## • セルフメディケーション事業(国内)

### – 国内OTC医薬品等

- リポビタンシリーズ: 2Qからマイナス幅は縮小  
シリーズ品、食系チャネルが改善
- パブロンシリーズ: 総合感冒薬を中心に好調
- リアップシリーズ: 引き続き、前年の反動でマイナス

### – H&B関連

- リビタシリーズ: 粉末シリーズを中心に引き続き好調

### <ご参考: 市場の状況>

#### – OTC医薬品市場

2011年度4-12月: 前年同期比▲3.1%

(インテージSDIデータ、金額ベース)

# 2011年度第3四半期 主要ブランド売上高



(億円)

	2011年度 3Q累計	前年同期比 増減	
リポビタンシリーズ	566	▲19	▲3.2%
パブロンシリーズ	188	+4	+2.1%
リアップシリーズ	111	▲5	▲4.4%
ナロンシリーズ	32	▲5	▲13.7%
胃腸薬シリーズ	33	▲0	▲0.9%
コーラックシリーズ	29	▲0	▲0.9%
リビタシリーズ	29	+3	+11.0%

注:金額は億円未満四捨五入



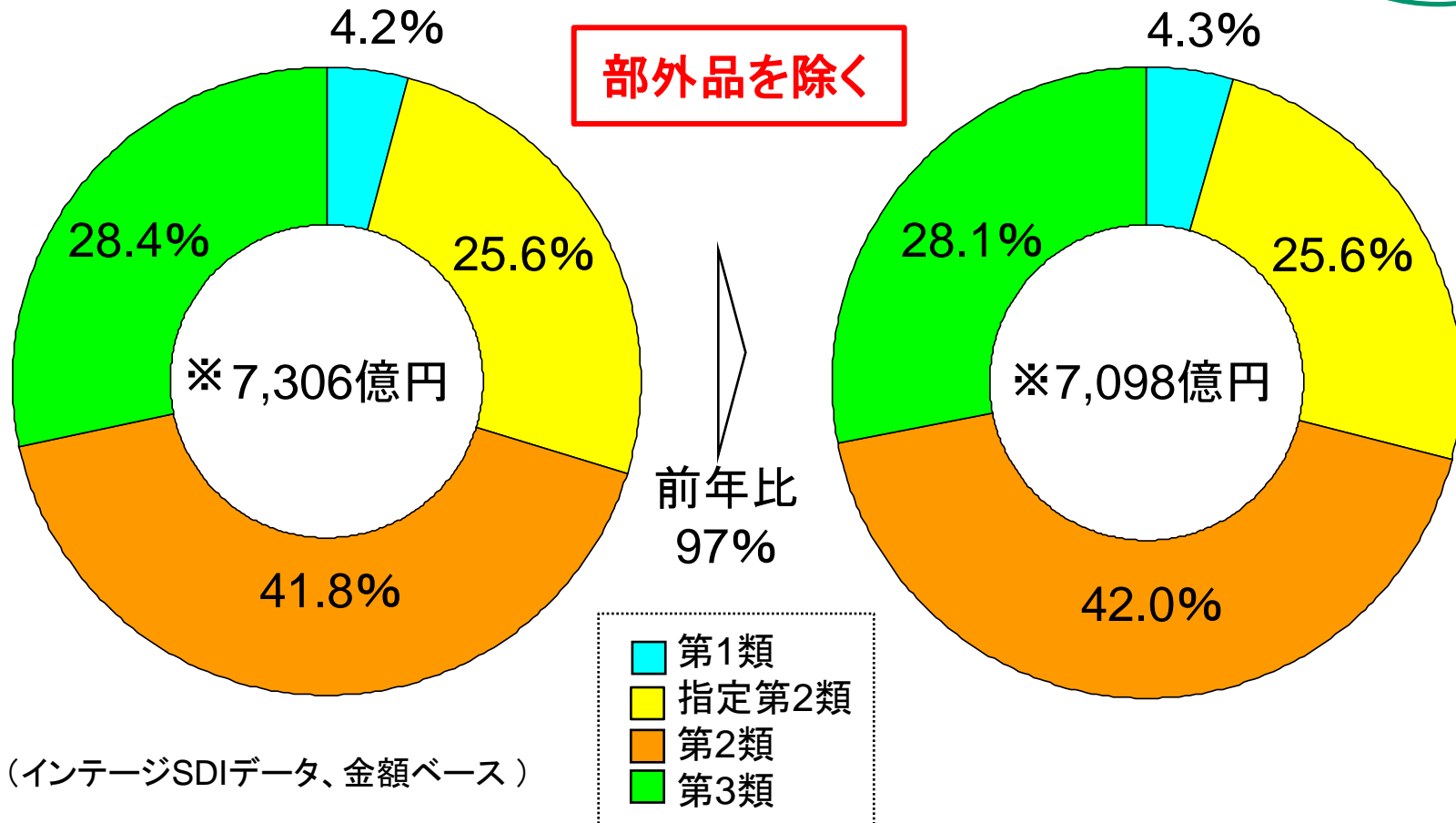
# OTC医薬品分類別構成比

国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く

(2010年度4-12月)

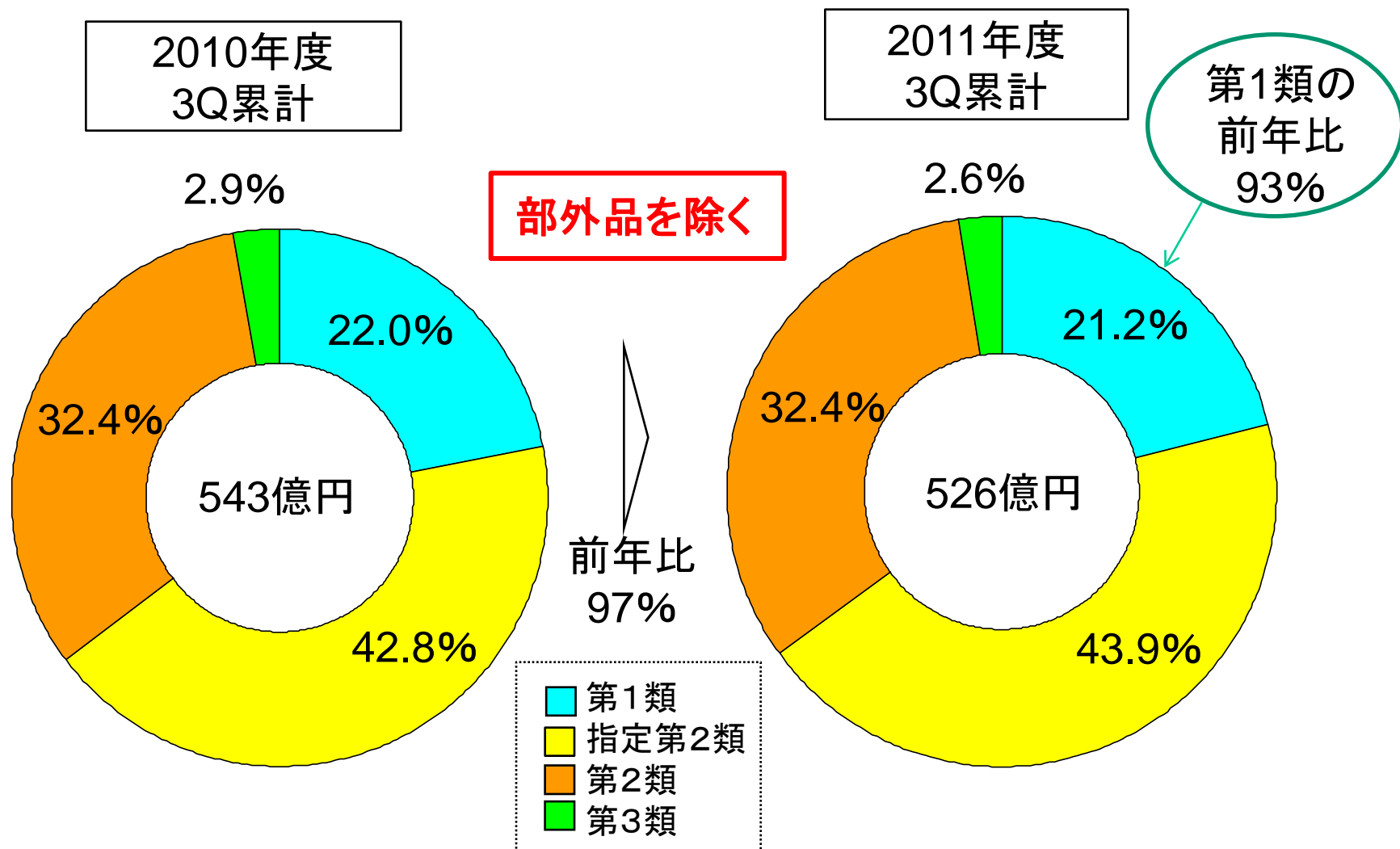
(2011年度4-12月)

第1類の  
前年比  
98%



(インテージSDIデータ、金額ベース)

# 当社のOTC医薬品分類別売上構成比



# 2011年度第3四半期の概況(2)



## • アジアOTC医薬品事業

(億円)

アジアOTC	2010年度 3Q累計	2011年度 3Q累計	2010年度 通期
売上高	35	45	47
BMS社からの買収分	35	40	47
Hoe社	-	5	-
営業利益	18	23	24
のれん償却等	15	16	20
のれん等控除後営業利益	3	7	4

– BMS社からの買収分：順調に推移

– 当四半期よりHoe社の寄与（8-10月の3ヶ月分）



# 2011年度第3四半期の概況(3)



## • 医薬事業

- 大正富山医薬品：10-12月は好調に推移
  - ゾシンは引き続き売り上げが拡大
  - マイコプラズマの大流行により肺炎患者が増加、クラリス、ジェニナック、オゼックス等の経口抗菌薬が伸長
  - 大正富山医薬品の抗菌薬市場\*シェアは18.0%でトップ(\* J01抗菌薬市場)

### <ご参考：市場の状況>

- 医療用医薬品市場：前年同期比：+6.6%
  - 当社の主力市場である抗菌薬市場は▲0.5%  
(経口：▲1.0%、注射：+0.2%)

(Copyright 2012 IMSジャパン(株))

JPM(データ期間：2011年4月～12月)をもとに作成、無断転載禁止)

# 大正富山医薬品：2011年度第3四半期 主要製品売上高



(億円)

	2011年度 3Q累計	前年同期比 増減	
クラリス	160	▲6	▲3.8%
ゾシン	136	+23	+19.8%
パルクス	75	▲4	▲5.1%
ジェニナック	48	+16	+49.5%
オゼックス	45	+14	+47.4%
ロルカム	26	▲1	▲5.3%
エディロール	12	+12	-

注：金額は億円未満四捨五入

増減は百万円単位で計算

# 2011年度3Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの9ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p><b>売上高</b> (+35億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業</b> (▲10億円) (主な増減要因) 国内OTC ▲28億円 アジアOTC +11億円 リビタシリーズ +3億円</p>	<p><b>医薬事業</b> (+45億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +39億円 中間製品等 +5億円</p>
<p><b>営業利益</b> (▲54億円)</p>	<p>売上総利益*: +3億円 (売上総利益率* 前年同期64.7%→当期63.8%) 販管費: +57億円 主な増減: 研究開発費 +24億円 販売促進費 +22億円                   広告宣伝費 +11億円 システム関連 ▲5億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は28億円改善(前年同期▲18億円→当期10億円) 特別損益: 投資有価証券評価損: 37億円</p>		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

# 2011年度：通期業績予想



(億円)

	通期予 (新)	前期比増減		通期予 (旧)	予想 修正額
売上高	2,705	+19	+0.7%	2,705	-
セルフメディケーション事業	1,668	▲4	▲0.2%	1,678	▲10
医薬事業	1,037	+23	+2.2%	1,027	+10
営業利益	365	▲76	▲17.2%	365	-
経常利益	435	▲106	▲19.6%	420	+15
当期純利益	230	▲119	▲34.1%	245	▲15
EPS(円)	279.71	-	-	296.12	
(参考)					
大正富山医薬品売上高	920	+22	+2.5%	910	+10

予=予想

注:金額は億円未満四捨五入

増減は百万円単位で計算

# 2011年度通期：売上高予想の修正



- セルフメディケーション事業

- 国内OTC:  
リアップシリーズのみ計画を引き下げ(▲5億円)
- アジアOTC:10-12月の状況等を踏まえ、  
5億円下方修正するが、実体に影響はない

- 医薬事業

- 大正富山医薬品の売上高を10億円引き上げ
  - 感染症領域:  
クラリス、ゾシン、オゼックスを上方修正
  - 炎症・免疫領域:  
エディロールの採用拡大に引き続き注力

# 2011年度：主要ブランド・製品売上高予想



(億円)

	2011年度 通期予・新	前期比 増減	2011年度 通期予・従来	前期比 増減	予想 修正額
リポビタンシリーズ	691	▲20	691	▲20	-
パブロンシリーズ	259	+2	259	+2	-
リアップシリーズ	144	▲5	149	0	▲5
ナロンシリーズ	42	▲4	42	▲4	-
胃腸薬シリーズ	43	+1	43	+1	-
コーラックシリーズ	39	+1	39	+1	-
リビタシリーズ	40	+4	40	+4	-
クラリス	215	▲14	211	▲18	+4
ゾシン	172	+24	170	+22	+2
パルクス	95	▲7	95	▲7	-
ジェニナック	60	+15	60	+15	-
オゼックス	55	+14	46	+5	+9
エディロール	17	+17	17	+17	-

注：金額は億円未満四捨五入

増減は百万円単位で計算

# アジアOTCについて



(億円)

	2010年度 通期	2011年度 3Q累計	2011年度 通期予想	前期比 増減
アジアOTC	47	45	62	+15
BMS社からの買収分	47	40	50	+3
Hoe社	-	5	11	+11

- 通期売上高の見通しは足元の状況を反映して修正  
(▲5億円)
- BMS社からの買収分: 積極的な販促活動が寄与
- Hoe社: 第3四半期から損益に反映  
(貸借対照表は2Q末より取り込み)

(Hoe社決算は12月期、  
通期では2011年8-12月の5ヶ月分の損益を取り込む)

# 2011年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+19億円)</p>	<p><b>セルフメディケーション事業</b> (▲4億円) (主な増減要因) 国内OTC ▲25億円 アジアOTC +15億円 リビタシリーズ +4億円</p>	<p><b>医薬事業</b> (+23億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +22億円</p>
<p>営業利益 (▲76億円)</p>	<p>売上総利益*: ▲5億円 (売上総利益率* 前年同期64.1%→当期63.5%) 販管費: +70億円 主な増減: 研究開発費 +13億円    販売促進費 +24億円                   広告宣伝費 +15億円    システム関連 +5億円</p>	
<p>営業外損益: 持分法投資損益は前期比▲29億円と前回見込みより改善 (2010年度+37億円→2011年度予+8億円) 特別損益: 投資有価証券評価損など</p>		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後    注:金額は億円未満四捨五入



# セルフメディケーション事業：新製品



## <2011年度の新製品>

### <上期>

リポビタンD8

リポビタンゴールドN

アルフェ エフイーアップ

など

### <下期>

(通販)

大正グルコサミン

コンドロイチン&コラーゲン

リアップリジェンヌ

大正漢方胃腸薬「爽和」

リビタシリーズ

など

赤文字：発売済みの製品

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



前回(2011年10月31日)以降、パイプラインの変更点なし

国内

(2012年2月2日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症(フェーズ2/3)	中外製薬共同	ロシュ
TS-071** (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン

\* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

\*\*TS-071

国際一般名: ルセオグリフロジン(字訳)

# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2012年2月2日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2			
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬/ 田辺三菱製薬

\* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

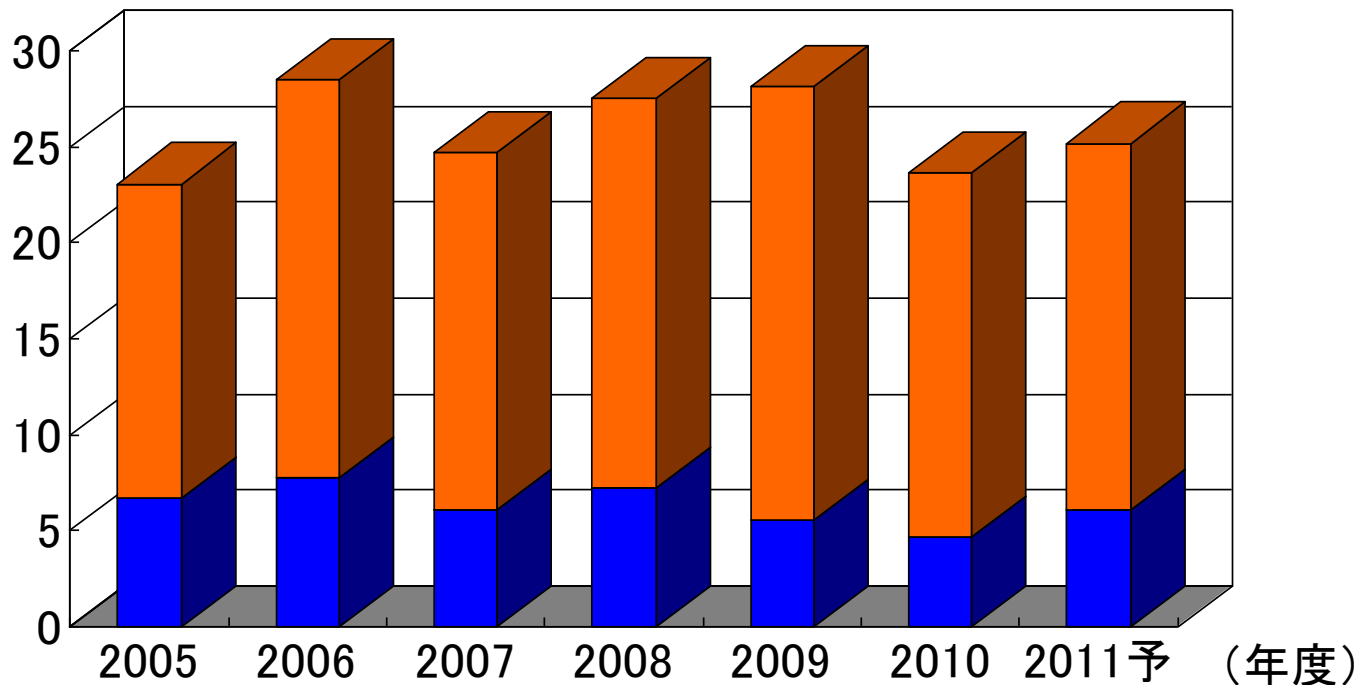
# 研究開発費の動向



2011年度3Q累計実績:175億円(前年同期比+24億円)

2011年度計画:250億円(同+13億円)

(十億円) ■ セルフメディケーション ■ 医薬



# 自己株取得について



- 自己株式取得を実施中  
(2011年11月28日決議)
  - 取得株数:280万株(上限)
  - 取得金額:150億円(上限)
  - 取得期間:2011年12月1日～2012年3月31日まで
  - 1月31日までの取得状況
    - 取得株式数:1,218,200株(進捗率 43.5%)
    - 取得価格(総額):7,273,634,000円(進捗率 48.5%)